

171-0014東京都豊島区池袋4 - 17 - 10 土屋ビル4F

AA

日本ニュースレター

No.107

## とどいた愛の手 5 0 8 6 4 4

## — 国際協力献金へのお礼 —

経験と力と希望をわかちあう回復のプログラムを、世界のどこかでまだ見ぬ苦しんでいる仲間へ届けるため、今年も「国際協力献金」のお願いを全国の AA メンバーに呼びかけました。その合計額がタイトルの数字です。ほんとうにありがとうございました。この愛の結集は、ニューヨーク G S O の「国際出版基金」に US \$ 5 0 8 . 0 0 を献金。アジア・オセアニア事務局へ NZ \$ 1 . 3 6 7 . 0 6 を献金。そして、今年 1 0 月ニューヨークで開催されるワールド・サービス・ミーティング ( W S M ) 1 名分の分担金に US \$ 2 . 8 0 0 を送金し、残りの金額 23,875 円を「国際協力基金」に預金いたしましたことをご報告いたします。

今年 2 月に開催された「評議会」で、今回の W S M 1 名分の分担金は、全体サービス予算に計上することが難しい状況から、「国際協力献金」から充当するという苦渋の選択を評議員の皆さんにお願いしました。このこともこの場で感謝申し上げます。金田さんと二人元気で行ってまいります。旅立つ前に、W S M でわかちあってきてほしいことなどがありましたら、J S O にお手紙または F A X で届けてください。帰国後の報告会は、前期評議員の金田さんが、「東日本圏（中部・北陸地域、関東甲信越地域、東北地域、北海道地域）」を「西日本圏（関西地域、中国・四国地域、九州地域）」を後期評議員：今井で報告させていただこうと考えております。

また、来年オーストラリアで開催する「アジア・オセアニア・サービス・ミーティング ( A O S M )」の前に「常任理事会ニュース」で紹介させていただきましてとおり、昨年の私たちの「国際協力献金」の支援で、昨年開催ホンコン A O S M にモンゴルから A O S M 評議員 2 名が参加できたことが実を結び、『A A の原理』がそのままモンゴル A A に花開いたことは大きな喜びです。

来年、福岡の地で日本 A A グループの 3 0 歳の誕生日を記念する「A A 日本 3 0 周年記念集会」には韓国からたくさんの A A メンバーが参加するとの声も聞いています。拡がりゆくアジアのサービスの輪の真中に、私たち日本の A A メンバーひとり一人の経験と力と希望のメッセージが生き生きと運ばれている喜びをかみ締めて、ほんとうにありがとうございました。

W S M 評議員 今井



...北から南から《各地からの便り》東から西から...

## 【第 3 回 AA 釜山慶南連合ラウンドアップに参加して】

テーマ・・・奉仕、回復を分かち合う・・・不思議な力

先日の 7 月 17 日、18 日とお隣りの韓国、釜山でラウンドアップが開催されました。これまでに何度か訪韓する機会があったことで、早くから、韓国の仲間からラウンドアップへの参加とスピーチの依頼が届けられていたので何とか出かけたかったと思っていました。

九州・沖縄地域のラウンドアップと日程が重ならなければと願っておりましたが、やはり思い通りには行かないもので同時期の開催となってしまいました。仲間への参加呼び掛けは積極的にやるわけにも行かず、パスポートを用意して早くから参加希望をしていた仲間と 2 人で出かけることになってしまいました。

1 日目 ( 1 5 日 ) は釜山の仲間と、有名な釜山海鮮料理を頂きました。日本語の出来る仲間が席を外すと、残された者には途端に沈黙が訪れてしまうのですが、やがて手まね、足まね、ジェスチャーを加えてなんとかそれぞれの思いが通じる様になり、笑いが溢れてきました。なんとも不思議な一体感が生まれるのはやはり A A のプログラムなのでしょう。

料理屋のご主人も AA の仲間と 4 年のソーパーということ、家族、従業員とも明るい笑顔で活気に満ちていたのが印象的でした。

外に出ても、通訳を交え 2 時間位、騒がしい店頭の前立ってのフェロウシップ、ステップの事、家族の事、仕事の事、将来の計画、希望・・・といくらでも話は尽きません。ご主人はどうしようもない酔っ払いだったそうですが、今はその影すら感じられません。喜びに溢れている姿を見て感激しました。

2 日目 ( 1 6 日 ) は 2 人で自由行動、釜山タワーへ観光に出向きました。暑い中で道が分からず右往左往している私たちを、女学生たち ( 高校生 ) が掃除道具 ( 塵取り、箒 ) を携えたまま長い道のりを丁寧に案内してくれました。その明るさと、親切さに圧倒されてしまいました。行く先々で会う学生たちに日本の人ですと紹介してくれるのです。初老? の 2 人は少し戸惑いながらも、異国での不安やかねてから持ってい

た心のわだかまりは簡単に吹き払うことができました。その夜、ぐったりと疲れ早々に眠りについたのですが、さわやかな眠りとなったことは言うまでもありません。

3日目(17日)はいよいよラウンドアップ会場へ向かいました。再会の喜びの連続でした。3年前のソウルでのアジア・オセアニアサービスミーティング(AOSM)とそれに続くキョンギウのコンベンション、昨年の釜山コンベンションと知らず知らずのうちに顔見知りの仲間が増えていました。

早速、1番前のテーブルに案内され、議長、GSO所長、その他古くからのメンバーと同席させられてしまい恐縮のいたりでした。

今回のラウンドアップは釜山8グループ、慶南10グループの合同で、100名程の参加予定数であったそうですが、150名を越えているとの報告がありました。見渡すとテーブルに座れずに立っている方の姿もかなり多かったように見え、すごい熱気を感じました。

ソウルからは12,3名の参加でしたが、全て顔なじみの仲間たちでした。その中に昨秋にも会ったあのにこやかなお顔が見られなかったことは本当に残念なことでした。70歳でAAにつながり、この2月に84歳で亡くなられたと聞き、心からご冥福を祈らせていただきました。

このラウンドアップは1泊で、夕食会を挟んで静かに話を聞く形式のオープンスピーカーズミーティングでした。夕食のご馳走は素晴らしく、その上、ホテル側からマグロ1匹(50万ウォン!)の差し入れがあったということでした。食事の後、私たち2人にもスピーチをする機会をも与えられました。通訳を交えて40分ぐらいお話しをさせていただきました。来年のAA日本30周年記念集会についても私からご案内させていただきましたが、早速、その夜、主だったメンバーが集まって仲間への参加呼び掛けと、情報収集を行うことに意見が一致したようにお聞きいたしました。

夜遅く、韓国メンバーが4,5名尋ねてこれ色々なことを分ち合うことができました。中でも女性のメンバーの話が印象に残っています。このラウンドアップはオープン形式で行われましたが、女性の参加は関係機関の方々や家族が主だったようです。女性メンバーの数はまだとても少なく、ソウルから来た1人は別として、慶南に2人、釜山に1人しかメンバーがいないと知らされました。男女平等に自分たちの問題を分ち合えない歴史的な思想や、アルコール依存症(アルコール依存症)を病気として認めない風土、どこかの国の地方と似ていることに愕然とさせられました。日本の女性メンバーの手助けで、一人でも多くの、AAはおるか、アルコール依存症自体も知らず未だ苦しんでいる人々にAAの愛の手が届けられるようにしたいものだと感じました。その苦しみとは、生きるか、死ぬかの苦しみであるということ私たちが十分に認識しているはずなのでから……。

4日目(18日)別室にて朝食、をいただきました。

朝、お会いした韓国の仲間はとてもくたびれた顔をしていました。聞くと皆さん徹夜で分ち合ったようなのです。高いびきで早く寝てしまった私たちは、仲間のAAに対する情熱に敬服させられてしまい、反省しきり……。

韓国料理にもうひとつ馴染めない仲間の為に特別料理を注文してくれ、部屋まで迎えに行くメンバーの姿がありました。彼がもう良かったのと言ったところ、反ってきた言葉は、

「仲間だから、最後の食事は一緒に頂きましょう！」

「ほっとしてくれ！」これが飲んでる頃の私の口癖でした。この性格は今でもさして変わってはいませんが、この国に来て何かを気付かされました。

遠方の仲間を、迎えの日から帰りの見送りまでの間、暖かくもてなす風土に感謝です。

お土産に、大きな大きな包を頂いたものの、こればかりは2人とも帰りの船や、タクシー、バスの乗り降りにかかなり苦労させられました。しかし、この甲斐があり、後日、分かち合った方々から「美味しかった！」と御礼の電話をいただいたこと、物事は何処で報われるか解らないものです。

日本についてから7時間をかけて九州・沖縄ラウンドアップ会場へ向かいました。2つの国のラウンドアップを経て経験させてもらい、一体性から醸し出されるパワーの微妙な違いを感じさせていただいたこと貴重な経験として伝えて行きたいと思います。

私の個人的な見方ではありますが、韓国(釜山)のAAグループ(メンバー)の成長は、少数のリーダーたちの奉仕と献身で育ってきたように見受けられ、今もその域を出てはいないように思えます。しかし、着実に各地に多くのリーダーが育ち、根を生やしていることは実感できました。

サービスの機構作りなどは遅れているのかもしれませんが、それぞれのステップへの関心の深さや一体性を大切にする心、気持ちはとても良い印象として残っています。

今回の、釜山ラウンドアップ参加費は宿泊、食事など含めて55,000ウォン(約5,000円位)でした。韓国の仲間が日本への30周年参加に気がかりなことがあるとすれば、この貨幣価値の違いであるのかもしれない。

今回、貴重な経験の仲介をしてくれた2人の仲間に深く感謝したいと思います。彼らは素晴らしい回復を続けていて、社会的にも回復しつつあるということでした。AAのプログラムを通して言葉の壁を取り外してくれました。

感謝

鹿児島 J

## J S O からののお知らせ パートタイマーの募集について

J S O の国際担当デスクのお手伝いができる方を探しています。各国の G S O と英語での連絡や W S M (ワールドサービスミーティング) A O S M (アジア・オセアニアサービスミーティング) 関連の連絡業務、各国のニューズレター、機関紙などの書簡整理や翻訳などが主な業務になります。基本条件として週 2 日、10 時 ~ 18 時の業務が可能な方(応相談) 9 月 15 日までに J S O へ電話をお願いいたします。

## 【第8回全国オフィススタッフワークショップの報告】

6月16日から18日まで、札幌で第8回オフィススタッフワークショップが開催されました。この集まりには全国7カ所のオフィス職員、常任理事会議長（高橋・Kさん）、J S Oの私が参加しました。また、札幌のメンバーがボランティアで書記の仕事をしてくださいました。地元のメンバー数人も駆けつけてくれ、ワークショップを傍聴し、夕食会、フェローシップにも参加してくれました。

以下プログラムの順番に沿って概要を報告します。

### 1. 来年度開催地について

- ・ 結論として、次回（2005年）は東北C Oあるいは中四国C Oの管轄で行えるようオフィス関係者全員が努力することになりました。
- ・ 結論に至るまでの討論の一部：全オフィスが福岡30周年記念集会のプログラムに、次回ワークショップを組み入れる、あるいは地元サービスに関する何らかのミーティングを入れるよう常任理事会あるいは実行委員会に要請するという提案は承認されませんでした。地元サービス・オフィスサービスとゼネラルサービスの違い、30周年集會に全国の職員が参加してしまうことの問題、経費負担の大きさなどが不承認の主な理由です。オフィスワークショップの継続についての討論もされました。費用対効果の観点から継続することに意義があるのかという問題が討論されました。関連して、アメリカ/カナダの全国オフィスセミナーの様子が紹介されました。

### 2. 30周年記念集會について

常任理事会議長より、記念事業全般について、A A日本30周年記念集會の概要と取り組みの進捗状況が報告されました。常任理事会は国内外に向けた大切な事業として、すべてのメンバーと一緒にこの記念集會を行いたいと考えており、各セントラルオフィスからもさまざまな面での協力をお願いしたいと、希望が伝えられました。

### 3. オフィス運営資金について

各オフィスの会計状況を示す資料が配布され、それをもとに報告を受け、分かち合いが行われました。

- ・ 財政面では、どのオフィスもきわめて厳しい状況であることが報告されました。
- ・ ある地域から、献金や書籍等の売り上げが伸びているといううれしい報告がありました。
- ・ 基金を蓄積しているオフィスもあります。緊急時のものだから手を付けないようにしている、赤字決算などで基金で穴埋めしてきたがそろそろ底を付いてきた、などの報告がありました。
- ・ あるオフィス職員が、支出の優先順位として 家賃、電話、電気、水道 職員賃金という厳しい現実があると話しました。

### 4. 労働条件について

- ・ 有給休暇、病気休暇の問題、ボランティアスタッフがどうか、などが分かち合われました。

### 5. オフィス運営について

- ・ 本人からの電話に関連して ミーティングへ行くことを勧める 問い合わせ者の近所の12ステップコールメンバー確認をし、「会場へ行けば さんがいるので訪ねてごらん下さい」と話す 「酒をやめたいか」を確認し、やめたいという返事があれば12ステップコールメンバーにつなげる。そのメンバーがどこで会うかなどは関与しない。12ステップコールメンバーのワークショップを開いた。
- ・ 家族・関係者からの電話に関連して オープンミーティングを紹介する 家族にはアラノンを紹介する Eメールサービスをしていることを伝える場合もある
- ・ J S Oから、各地のボランティアメンバーリストがあればいいのではないかと意見が出された。
- ・ 各オフィスの「12ステップコールメンバー」の登録状況について報告があった。

### 6. 地域のメンバーへのオフィス活動の広報について

- ・ N Lの活用 ・地域とオフィスの連絡会 ・C O委員の集い、運営委員会交流会が開催されている

以上はほんの概要です。詳細は近々完成する報告書を参照していただくようお願いいたします。

今回のワークショップの3日間を通して、私は、各地のセントラルオフィスが今大事な節目の時機を迎えていると感じました。J S Oもそうですが、各オフィスは深刻な財政問題で悩んでいます。財政問題はオフィスサービスの低下につながり、グループのオフィスを支えようとする意欲の低下（献金の伸び悩みなど）に連動します。悪循環です。ワークショップでは、グループとオフィスのコミュニケーションを良くするために、各オフィスの委員会レベルで行われているさまざまな工夫が報告されました。コミュニケーションの改善や、オフィスを支えるグループの声を聞き、意思を決定・実行していく仕組みの見直し、再編成に取り組んでいる最中であるとの報告もありました。

あるオフィスは、隔月に土日のサービス委員会を持ち、土曜は地域委員会、日曜はオフィス委員会を開いているとのことでした。一人の委員が二役を兼ねるわけですが、別のオフィスもほぼ同様な仕組みがスタートしようとしていると報告していました。アメリカ/カナダと同じように、グループ代議員、地区委員とグループオフィス委員、オフィス運営委員の2本立てとし、ゼネラルサービスと地元サービスを機構の上でも分離しているところもあります。

地元のグループへの奉仕という最も基本的な目的を達成するために、グループとオフィスを結ぶ仕組みが地元の実情、条件に応じて多様に作り出されようとしていることが、今回のワークショップでよくわかりました。この多様性を大切に、各地のオフィスサービスの経験と知恵を分かち合い、学び合うことが、今後のオフィスワークショップの重要課題になるだろうと感じています。そしてそのためには、ワークショップのメンバーシップの拡充（スタッフだけでなくオフィス運営委員やオフィス委員などの参加）が不可欠だと思います。来年以降のワークショップが、これらの課題に応えるものとなるように願っております。

( J S O 城間 )

2004年11月6日中四国地域開催

第3回「広報&病院施設フォーラム」のお知らせ

2002年度から第1回が滋賀県、2003年度第2回が栃木県でと多数の関係者とAAメンバーとが参加され開催されました。2004年度第3回は、中四国地域での実施が例年と同じ手続きを持ち第9回全国評議会で採択されました。本年4月18日に第1回の実行委員会が開かれ、このニューズレターが発行される時点で、8回目の実行委員会が8月29日に開かれるまでに至っています。この間に実行委員会の皆さんは地元の関係者などに積極的に広報をしています。

しかしながら、限られた予算の中でありますからなかなか思うようにはいかない部分があり、会場費、パネリスト、スピーカーなどの宿泊交通費、広報費、通信費など、実行委員会では、それはそれは大変な苦勞を重ねています。私はといえたいした力にもなれないどころか実行委員会の皆さんから逆に力をいただいて勇気づけられています。

また実施につきましては、多くのAAメンバーの力、関係機関等の協力がなければならぬと思っています。開催日の前日は宿泊の用意がされていますので遠方の方でもゆっくりと参加できるものと思っています。ふるってご参加くださることをお願いいたします。また、理事会の考え方が記してある、

第1回からの開催要項がありますので、今後開催したいという地域があればご遠慮なくJ S Oまでお知らせください。  
広報担当理事 原田(東日本圏)

**2004 メンバーシップサーヴェイの速報です。**

6、7月とメンバーの皆さまにご協力いただいたメンバーシップサーヴェイの集計作業が一段落いたしました。最終チェックをこれから行ってまいります。速報として皆さまにお知らせいたします。今回の有効回答数は1,796人と前回は幾分下回ってしまいました。先ず男女の比率は女性21%と前回より微増、ホームグループを持っている人は83.9%で少し減り、スポンサーを持っている人も45.8%で0.7%の減、スポンサーがいる人も17.2%で0.4%減ということになりました。

また、平均スーパー年数は4.8年、平均年齢は49.6歳、ミーティング参加回数は平均週3.4回、結婚している人は35.7%、一人で暮している人は37.9%という結果がでています。

最終確認をいたしまして次の日本ニューズレター108号で皆さまにお届けすることになります。リーフレットの作成は来年の予算計上になると思いますが、ホームページの方でダウンロードできるようにしたいと考えています。

**第3回AA日本広報&病院施設フォーラム**

**テーマ「アルコール依存症からの回復」～社会資源としてのAA～**

2004年11月6日(土曜日) 10:00～14:30 「エソール広島」

**プログラム**

9:30～受付開始 ----- 10:00～フォーラム開会--オープニングセレモニー他

10:20～午前の部「社会資源としてのAA」

田辺 等氏「AAの精神療法的効果 12ステップグループにおける回復」

北海道精神保健福祉センター指導部長・精神科医 AA日本常任理事会A類(ノンアルコール)常任理事

松本 洋輔氏 岡山大学医学部付属病院精神科精神科医

他数名

12:00～ランチタイム

13:00～午後の部「アルコール依存症からの回復」

プレゼンテーション (AAメンバー・行政医療関係者による...)

パネルディスカッション (会場からの質疑応答を交えて...)

16:30～フォーラム閉会

フォーラム会場 「エソール広島」

広島市中区富士見町 11-6 TEL082-242-5252

URL <http://www.essor.or.jp>

第3回AA日本広報&病院・施設フォーラム実行委員会

連絡先 AA中四国セントラルオフィス(CSCO)

TEL 082-246-8608 携帯 090-8604-1809

URL <http://ww1.enjoy.ne.jp/~cscso/>

E-mail [aa-cscso@go7.enjoy.ne.jp](mailto:aa-cscso@go7.enjoy.ne.jp)

主催: AA日本常任理事会

日本ゼネラルサービス(J S O)

TEL 03-3590-5377 FAX 03-3590-5419

★フォーラムの案内、参加(宿泊)等の詳細はC S OまたはJ S Oにお尋ねください。



**AA日本ニューズレターNo. 107**

編集・発行: N P O法人 AA日本ゼネラルサービス(J S O) 〒171-0014東京都豊島区池袋4-17-10土屋ビル4 F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ: <http://www.aajapan.org/>